



市町村の図書館にとって、県立図書館は後方支援基地として欠かせない存在である。また、市町村でできないサービスを行うところとして、サービスを発展させる存在としての側面もある。さらに、県内全体の図書館を盛り上げるコーディネーターとしての役割もある。このように多様で難しい役割を担いながら、県立図書館について論じられることは、多くなかった。

道州制の導入も検討されようとしている中で、県立図書館は、その役割・位置づけが今一度、問われている。一方で、市町村よりは、一般的に司書も配置されていた県立図書館も、長期間、司書の採用・配置も行われなくなっているところもある。

これから、転換期が来るのは間違いない。起ってからではなく、今、まさに準備しておかないと存在そのものが問われることもあるかもしれない。

こういう中で、危機感も感じる一方、県立図書館の役割について再認識している方々にいろいろな観点から原稿を書いていただいた。論点が多様なので、全体として統一したものにはならないが、市町村の図書館にとっても影響の大きい話であり、また、県内の大学にも関係してくる。県立図書館の関係者だけでなく、ぜひ、多くの方にお読みいただき、ご意見をお寄せいただきたい。

(山重壮一)